

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

準備作業(立案)
文書の組み立て

文書の役割の確認

- 初心者にとっては、自分の書こうとする文書の役割を確認することが第一の前提である。
- 経験者も、書き始める前に、あるいは書き上げた文書を読み返す前に、読者が何を期待しているかと、反省してみるのがよい。

主題の選定

- 主題: その文書で主として叙述するもの
- 有意義なものを書けるかどうかは、第一に主題の選定によって決まる。

主題選定について(その1) 与えられた課題

- 課題が与えられている場合、それによって規定されているものの範囲によって、自分で決めるべき事項が定まる。
- 例1: おおまかな課題「日本における大学教育の特質を論ぜよ」
- 例2: より詳細な課題「日本と米国の大学教育における総合評価方法を比較し、日本の教育の将来像についてあなたの意見を述べなさい。」

主題選定について(その2)

一つの文書には一つの主題

- ひとつの文書に複数の主題が混入すると、読者に散漫な文書との印象を与え、文書の説得力が低下する。
- 例「日本と米国の大学では、入学者選抜方式がまったく異なる。米国では入学は容易であるため、GPAで厳格に達成度を測り、それによって退学勧告や転校等がなされる。これに対して、日本では入学試験は厳格であるが、いったん入学してしまえば入学後の達成度の評価は厳しくない。」

つづき

- 複数の主題が混入「日本と米国の大学では、入学者選抜方式がまったく異なる。米国の大学ではフットボールに学校あるいは地域を上げて熱中する点も、日本には見られない現象である。米国では入学は容易であるため、GPAで厳格に達成度を測り、それによって退学勧告や転校等がなされる。米国では在學生ですら企業を立ち上げるほど起業家精神に富んでいる。これに対して、日本では入学試験は厳格であるが、いったん入学してしまえば入学後の達成度の評価は厳しくない。」

主題選定について(その3)

文書の長さ制限

- 長さに応じて主題を選ぶと、密度の濃い議論が展開できるため、説得力のある文書となる。
- 原稿用紙: 400字詰め(20字×20行)
- 英文の長さ: M字×N行→MN/6語と換算
- 英文を訳した日本語の長さ: 概ね英文の2.5倍程度と言われる。

主題選定について(その4)

読者は誰か

- 主題選定、材料取捨にあたっては、どれだけの予備知識を持った人か、何を期待あるいは要求しているかを、十分に考慮しなければならない。
- 例
ラブレター: 異性の相手
宿題またはレポート: 専門の先生あるいはTA
卒業論文: 指導教授および大学高学年生
研究論文: 専門家

主題選定について(その5) 生の情報が強い

- 自分自身が直接実施したり、目にしたりして得た「生の情報」や、自分自身の考えに重点を置くと、説得力ある文書になる。
- 「生の情報」はそれだけでオリジナリティという大きな強みを持つ。
- 特に学生レポートでは、インターネットなどで調べることは効果的ではあるが、自分で現地に足を運んでの調査にはそれだけで人を説得するものがある。

材料あつめの方法(その1) ともかくメモする

- 思いつくままにメモする。
主題に関連する可能性のある事柄を、すべてメモしておく。
- ブレーンストーミング
主題について頭に浮かぶアイデアを片っ端から述べ合う。批判は厳禁。列挙されたアイデアから解決法を探る。
- KJ法

材料あつめの方法(その2) ジャーナリストの定石

- 5W1H
who, when, where, what, why, and how
- それが「どんなものか」を記述するときには、まずそれと似たものを探せ。次に、似たものとそれとはどこが違うかを考えよ。
- 何が問題かを明確にし、確実にわかっている点を明らかにし、よくわかっていなくて調べる必要のある点を明確にする。

材料あつめの方法(その3) 図表と文献

- 図表はフリーハンドで描いた概略があればよい。細かな作業は後でまとめて。あるいは、ほかの担当者にまかせる。
- 文献は、通常、調査の段階で探索される。書き方の問題としては、以下の2点が重要。
(1) 出典を明確にする。
(2) 引用部分は明確に「」で示す。

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

文書の組み立て

1 起承転結

- 話し上手といわれる人のスピーチは起承転結の組立てになっていることが多い。
- 理科系の文章でも、
 - <起>序論で背景と取り組む理由
 - <承>実験の方法と結果
 - <転>問題点を吟味
 - <結>結論をまとめる

2 重点先行主義

- 起承転結では、最も重要な結論を文章の最後に記述する。
- 近年は、結論を最初に記述する事が求められる。

Why? 読者が瞬時に内容を推察し、その文章を読むべきか否かを判断する事が出来る。

3 新聞記事

- 新聞記事は重点先行主義の具体例。
 - まず結論(タイトル)を記載
 - 本題に入る

4 序論

- 序論の使命は読者を本論に誘い込む
- 理科系の文章では、特に下記の2点が求められる。
 - 読者が本論を読むべきか否かを敏速・的確に判断する為の材料を示す。
 - 本論にかかる前に必要な予備知識を読者に提供する。

5 結び

- 現在、理科系の文章にはほとんど結びらしい結びがない。
- 理由には以下の2点が挙げられる。
 - 重点先行主義より結論を序論に記述する。
 - 情報過多時代より、「なくても済む言葉は削れ」という要請がある。

6 本論 ～概観から細部へ～

- 現在、重点先行主義が求められており、装置・実験法等の説明を書く場合にもこれに似た方針が勧められている。
- 大まかな説明を与えて読者に概観を示してから細部の記述に入るやり方である。
- 文章の冒頭の短く要を得た記述により概観がつかめれば、読者にとって細部の記述を理解・吸収する事は格段に容易になる。

7 本論 ～細部の記述の順序～

- 概観を書き終え、細部の記述に入る時、その細部の記述の順序を決める要素は、分類である。
- 書くべき内容を機能別に分類したり、性質別に分けたりする事が出来る場合には、その分類に従って記述を進めるのが原則。

8 本論 ～論理展開の順序～

- 論理を展開する場合、自分がたどった紆余曲折の道ではなく、より簡明な道に沿って書かなければならない。
- 理論の基礎にある仮定を浮き立たせて書く必要がある。
 - 理論の出発点となるのは理想化したモデルであるが、誤差のない測定はない為、どの様な事を仮定したか明記する必要がある。